



# 生態園 NEWS Letter

No165

2018/1

NPO 法人

茅ヶ崎公園自然生態園管理運営委員会事務局

Tel/Fax : 045 - 945 - 0816

E-mail [seitaien@ybb.ne.jp](mailto:seitaien@ybb.ne.jp)

URL <http://www.geocities.jp/seitaienjimukyoku/index.htm>

マユミの実とメジロ(11/23)



枯れ花も冬の賑わい...シロヨメナ



ノコギリ



ノダケ



コセンダングサ

(1/11)



ウシカメシ(12/19)



ハサミツノカメシ(12/5)



オオコムヘリカメシ(12/13)



クヌギカメシの一種(12/22)

〇〇〇水辺のいきもの〇〇〇

## キンクロハジロ(カモ科)

名の通り、金色の目と黒い体、白い嘴(くちばし)が特徴のカモ。雄は頭の冠羽(かんう)が目立つ。冬にロシアなどから渡ってくる。体は小さめだが潜水が得意で、貝類などを食べる。



寒くなり見られる昆虫もいわゆるカメシくらいとなりました。総じて悪臭を放つことで嫌われ、地方によっては「クサムシ」とか「屁こき虫」など様々な呼び方がされてもいます。外敵から自分の身を守る他、仲間への警報、求愛などのために臭いを発するとされています。

メジロ:岡村勇 昆虫:山村靖男

## 今月の花

## 冬に熟す青い果実 ジャノヒゲの仲間

ユリ科(キジカクシ科) ジャノヒゲ属

生態園で冬に目につく果実というと、正月の飾りなどに使うこともあって赤い果実をつける小さい低木のマンリョウやカラタチバナなどがまず思い浮かびます。これらに比べると目立ちませんが、草のジャノヒゲの仲間も冬に果実が熟し、青い美しい果実をつけます。生態園では、ジャノヒゲ「蛇の髭」(別名リュウヒゲ「龍の髭」)、ナガバジャノヒゲ「長葉蛇の髭」、オオバジャノヒゲ「大葉蛇の髭」、そしてこれらよりずっと大きな株になるノシラン「熨斗蘭」が見られます。

果実はいずれも球形で直径ほぼ1cm弱、ジャノヒゲ、ナガバジャノヒゲは鮮やかな青色、オオバジャノヒゲは灰色を帯びてちょっとくすんだ感じ、ノシランは球形ではなく卵形で長さ約1cm

コバルトブルーと言いたいような鮮やかな瑠璃色に熟します。これらジャノヒゲ属の植物は、青い果実に見えるのは、果皮が早く落ちるためむき出しになった種子だということです。

花は初夏から夏に咲き、ほぼ白色の小さな花が穂状につきます。ジャノヒゲやナガバジャノヒゲは花や果実が根際につくのでしゃがみ込まないと見えません。オオバジャノヒゲは花の柄が立ち上がるので、またノシランは大きな株の間から柄が抜き出るので歩きながらでも花や果実が見えます。

ノシラン以外の3種は自生種ですが、ノシランは本来の自生地は東海地方以西と言われており、生態園のものは栽培品が移入して野生化したものと思われる。開園時には数株だったものが、現在は10株ほどに増え、根ぎわの直径が60-70cmにもなるかという大株がいくつか見られます。実が美しくても殖えるままにはできないのかもしれませんが。

分類上は、従来はユリ科とされていましたが、最近の遺伝子解析に基づく分類ではキジカクシ科とされています。

菊池 光昭



ジャノヒゲ



ナガバジャノヒゲ



オオバジャノヒゲ



ノシラン

1月に見られるおもな果実 オオバジャノヒゲ・カラタチバナ・サルトリイバラ・ジャノヒゲ・シロミノマンリョウ  
スイカズラマンリョウ・ヤブコウジ